



東三河へ豊川用水が果たす役割



愛知県東三河の山間部に降った雨は、様々な施設（宇連ダム、大島ダムなど）により宇連川から豊川用水へと取り入れられ、豊橋、田原方面の水路（東部幹線水路）で渥美半島の先端まで（約76km）、また豊川、蒲郡方面の水路（西部幹線水路）で蒲郡市まで（約36km）送られます。

さらに大野頭首工の下流には牟呂松原頭首工があり、ここで牟呂用水、松原用水により豊橋市やその周辺地域に送水されます。

このように豊川用水はこの地域の田畑約18,000haの農業用水、5市の水道用水および東三河地域・湖西地域の工業用水に利用されています。

豊川用水は、東三河地域の生活、生産を支えています。

豊川用水の使われ方 農業用水70%、水道用水24%、工業用水6%



土地改良区が管理する豊川用水施設



- 支線水路 161支線 530km
- 末端施設水路 2,660km（豊橋開拓土地改良区管内約250km）
- 揚水機(ポンプ)場 326か所（豊橋開拓土地改良区管内24か所）
- ファームポンド 287か所（豊橋開拓土地改良区管内23か所）



豊川用水の再生可能エネルギー施設



水資源機構 豊川用水総合事業部

小水力発電所3箇所

- 宇連ダム発電所
- 大島ダム発電所
- 二川発電所

豊橋開拓土地改良区

太陽光発電所2箇所

- 中里発電所
- 栄斧取発電所

（西七根発電所実証実験施設1箇所）

地域と共に生きる 豊川用水と土地改良区

～豊川用水の流れ～



土地改良区は、豊川用水（農業用水）を365日休むことなく東三河の農地に生命の水を送り続けています。



水士里ネット豊橋開拓 スマートビレッジ事業

豊川用水のファームポンド施設の上部を利用して太陽光発電設備を設置、この再生可能エネルギーの導入により

- ① 豊川用水施設（農業用）の維持管理コストの軽減を図る
- ② 地球温暖化緩和、環境負荷の軽減を図る
- ③ 災害時における非常用電源と緊急時の生活用水の確保を図る
- ④ 防災拠点として地域社会への貢献を図る



コンセント



ノートパソコン



携帯電話



小型ラジオ

等、使用できます



パワーコンディショナー

コンセントを設置、日中の電源を確保
*太陽光発電時使用



ファームポンド

(農業用貯水池)

揚水機場

立入禁止



コンセント



ノートパソコン



携帯電話



小型ラジオ

等、使用できます

災害時に地域住民の皆様へ使用出来るよう、
防災拠点の揚水機場にリチウムイオンバッテリーと
浄水装置を備え付けます。



*予備電源として持運び可能

リチウムイオンバッテリー

太陽光発電により蓄電、
夜間の非常用電源を確保



モーター駆動・手動型浄水装置

ファームポンド(農業用貯水池)の水を汲み上げ
浄化して、生活用水を確保、水不足を解消